

北海道余市紅志高等学校のスクールミッション

令和3年1月15日

(令和5年4月6日一部改訂)

(令和6年7月23日一部改訂)

1 北海道高等学校長としてのミッション ～つなげる力、つなげる力の育成～

北海道の豊かな物的あるいは人的資源の価値に気づき、その価値を多くの人々と共有し、さらに高い価値を付与しながら、広く世界の人々とのつながりを構築して、北海道の財産を有効に生かすことによって人々が住まう地域の豊かな暮らしを自ら作り上げようとする人、また、それらに取り組むところに幸福観や充実感を感得できる人の育成

2 スクール・ミッション ～「ソムリエカ」(つなげる力、つなげる力)の育成～

- (1) 本校の教育の柱である三つの系列を構成する特色ある選択科目や教科・科目横断的な選択科目における体験的な学習を通じて、生涯にわたって自らの考えを広げ深め、自らの学びを振り返り次の学びにつなげていこうとする生徒の育成
- (2) 北後志地域の物的あるいは人的資源の価値に学び、それらの価値を生かしたりさらに新しい価値を生み出したりする取組を通して、地域の課題を地域の人々とともに解決していこうとする意欲と経験知を身に付けた生徒の育成
- (3) 将来各自が住まうであろう様々な地域において、多様な人々とのつながりを築き、協働的に豊かな地域社会を、ひいては豊かな世界を作り上げようとする生徒の育成

*本校においては、相手の立場や相手の思いなどに応じた相手意識を働かせたコミュニケーション能力(つなげる力)を「ソムリエカ」と称し、キャリア教育の重点に位置づける。

3 校訓

学べ 優しく 逞しく

4 学校教育目標

社会で生きて働く力を身に付け、
自分の力で逞しく未来を切り拓き、
地域の創造に貢献できる人の育成

5 校訓、ミッション、学校教育目標の関連

校 訓	スクール・ミッション	学校教育目標
学 べ (思考力・判断力)	地域の価値に学ぶ 地域課題の発見と解決	社会で生きて働く力を身に付け
優 し く (想像力・表現力)	多様な人々とつながり協働的に	地域の創造に貢献できる人の育成
逞 し く (主 体 性)	意欲と経験 新しい価値の創出	自分の力で逞しく未来を切り拓き

6 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

余市紅志高校創立時に策定された校訓の趣旨と、これからの新しい高等学校が目指す使命や地域の高等学校としてのスクールポリシーを分析的に系統化を図り、卒業時に本校生徒が身に付けているべき（地域への約束としての）生徒の資質・能力を次のように整理した。

（１）学べ（知的活動、知識習得、見通し）＝思考力・判断力

ア 基本的知識・技能

イ 課題発見・解決力（状況把握・情報活用→課題発見→計画立案、メタ認知など）

ウ 言語能力（言語活用能力、対話力など）

＊成功体験→自己有用感→「なんとかする、なんとかなる（前向きと楽観）」

　　a＜主体的に目標を設定し＞

（２）優しく（人間関係、相手意識・ホスピタリティ、モラル）＝想像力・表現力

ア 協働性（相手意識、コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性など）

イ 自己尊重（自己理解・他者理解、自己肯定感、規範意識、傾聴力、表現力など）

ウ 多様性理解（寛容性、外国語等能力（含む手話）、対話力など）

＊自己との対話、他者との対話→「ありがとう（つながる力と感謝）」

＊自己理解→他者理解→自己肯定感→「自分らしく（独立とマイペース）」

　　b＜振り返りながら＞

（３）逞しく（自己理解、自尊感情、自己有用感、コンフィデンス、意欲・意思）＝主体性

ア 意欲・実行力（自己有用感、意思など）

イ 責任・使命（自立心、自尊感情など）

ウ 健やかな身心（自己理解、規律性、自律、忍耐力など）

＊成功体験→自己有用感→「挑戦とつなげる力（自己実現と成長）」

　　c＜責任ある行動がとれる力＞

（４）a + b + c = 生徒のWell-being実現のために重要な資質・能力

「豊かで安心して住み続けられる地域づくり」をとおして
（１）～（３）の資質・能力を身に付けます。

7 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（１）学校教育目標やめざす生徒像実現のため、教科・科目横断的な教育課程の効果的編成に努める。

ア 単元配列表を活用し、意図的・計画的な横断化を推進する。

イ 総合的な探究の時間を各教科・科目で培った知識・技能及び資質・能力を総合的に活用・評価する場面として位置づける。

ウ 生徒の主体性を育む空き時間の設定

・ 空き時間の活用にかかるしつけ→空き時間の主体的活用能力の育成→ポートフォリオへ

・ 面談（二者、三者等）や進路学習など生徒理解、進路実現に向けた時間として活用

・ 産社・課題探究にかかる補完的な時間として活用

- (2) 各系列の趣旨を明確にし、趣旨に基づいた特色ある科目を設定してめざす生徒像の実現を図る教育課程の編成に努める。
- ア 系列ポリシーを意識し、どのような資質・能力を育てるための科目を設置するのか自覚的に教育課程を編成・実施するとともに、科目選択時の生徒への説明を重視する。
- イ 大学進学等に対応する科目は自由選択科目群に配置する。
- (3) 生徒の特性や地域の教育資源を十分活用できるよう、地域に開かれた教育課程の編成に努め、生徒が将来どのような地域で生活しても、地域社会の一員として地域の課題解決を図ろうとする資質・能力を育成する。
- ア 生徒の実習により生産されたワインの販売や活用方法、価格設定等の学習を通じて目指す資質・能力の育成を推進
- イ エディブルフラワーの生産を軌道に乗せ、各教科、課題探究での活用を図るとともに、飲食店（まずはシュガーガーデン）との連携による活用など6次産業に係る学習へと発展
- ウ 高齢者福祉施設や養護学校との連携を維持、発展させ、課題探究、学校設定科目、課外活動など農福連携機会の積極的導入を工夫
- エ ICTを活用した楽しい語学学習、外国語によるコミュニケーション、わかる、できる通じる実感を大切にする学習指導
- (4) 地域に点在する小規模高校共通の課題解決の一方策としての遠隔授業や学校間連携の在り方について関係機関等への発信に努めるとともに、アプリケーションソフトやネットワークの活用による学習の推進を図る。（道教委への要望）
- ア T-baseの一層の拡充を訴えるとともに特例校以外の地方の小規模高校への配信を要望
- イ 将来、授業配信や講習配信等を意図した総合学科間でのオンライン連携の充実
- ウ 多彩な特色ある科目を維持するため、主に普通教科・科目のオンデマンドによる学習の単位認定を要望
- エ 探索に多大な労力を費やす時間講師を補うためのオンライン、オンデマンド学習の単位認定を要望

8 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

- (1) 中学校までに将来の進路目標が見つかっていなくても、本校に入学してから、自らの在り方・生き方を仲間や教員とともに、地域をステージとした様々な体験的な活動を通じて探究し、自ら進路目標を決定し、進路実現を果たそうとする生徒。
- (2) 自らの考えや思いをことばや創作物などのパフォーマンスによって他の人に伝えたり、他の人の考え方や思いをよく見聞きして想像したりしながら理解を深め、年齢、性別、国籍や文化の違いを超えて人とのつながりを持ちたいと考えている生徒。
- (3) これまで、自分に自信が持てなかったり、自分のよさを見つけられずにいたとしても、高校で身に付ける基礎的・基本的な知識や技能を様々な体験の場で活用して、自分の良さや活躍場面を発見し、将来自分らしく、たくましく生きていきたいと考えている生徒。